

元高松市議(無所属) 植田 まきの 市政ニュース



「植田まき」でWEB検索を! <http://uetamaki.com/>

**政務活動費
だけじゃない!**

市民感覚からかけ離れた 議会出席手当って何だ??

~5,000円以上の定額支給は、全国でたったの3市議会に!~

交通費っていうけど...

実際にはいくらかかるのか、ざっと例を挙げてみたいと思います。
(植田の場合、仏生山町から市議会)



前号では、政務活動費の現状について報告しましたが、地方議会にはそれ以外にも「第3の報酬」とも言える「費用弁償」(分かりにくい言葉なので、私は「議会出席手当」と呼んでいます)というものがあります。その実態や問題点について、皆さんと考えたいと思います。

ひょうべんしょう 費用弁償とは?

議員が議会に出席するだけで、報酬とは別に交通費と日当という名目で税金から支給されるものです。費用弁償の支給は条例で定められていますが、高松市議会の場合、議員の自宅から市議会までの距離が4km未満だと1日6,000円、4km以上は6,500円、公用車使用の場合は3,000円となっています。(香川県議会も同様の制度があり、支給額は8,000円~12,000円)

制度廃止の議会も

とはいっても、そもそも制度がない、制度はあったけどお手盛りだとの批判があるので廃止したというように、現在では費用弁償を支給している議会が少数派になっています。全国812市の中で、費用弁償を支給していない議会は、451市議会(55.5%)に増え、高松市議会のように5,000円以上の定額支給は、たったの3市議会(2.3%)となっています(平成25年12月31日現在、全国市議会議長会調べ)。

・自家用車



約250円

(軽自動車、燃費18km/ℓ、ガソリン代141円/ℓの場合)

・電車



640円

(ことでん電車、片道320円)

・自転車



費用は特にかからない

この問題は小さなこと??

かかった費用(実費)を支給するのではなく、どんぶり勘定になっているのが実態です。少しでも経費を削減しようとする民間企業では考えられないことでしょう。私は、市議現職時代、それまで働いていたところで交通費、1か月5,000円を受け取っていたことを考えると、あまりにも市民感覚からかけ離れたものだと思います。8年間、費用弁償の受け取りを拒否しました。

しかし、市議会内で費用弁償廃止を求めると、「こんなことは小さな

こと」、「(受け取り拒否は)単なるパフォーマンス」といった声が多く、制度の見直し議論はありません。議会全体の見直しで、かなりの税金を福祉や子育て支援などの施策に使えることを考えると、小さな問題ではないと思います。

今こそ議会に厳しい目を!

費用弁償や政務活動費のあり方は、必ずしも議会の本質的な問題ではないかもしれませんが、しかし、財政が厳しい中、税金の使い道をチェックする議会が、お金の使い道に鈍感になってはいけません。



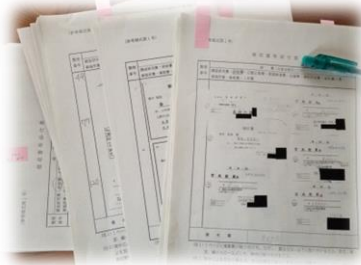
植田はこう考える!

報酬の二重取りは言うまでもなく、時代に逆行したこの制度は早急に廃止すべきと、2003年から言い続けてきました。この間、高松市議会における制度の見直しは進んでいませんが、全国的には進んでいることが明らかになりました。費用弁償をはじめとする議員特権の見直しにこだわるのは、市民感覚で公正な政治を行うための基本の「き」だと考えます。

不透明なブラックボックス、驚きの実態!

「議員連盟」って何してるの?

香川県議会の政務活動費（以下、政活費）の使い道をチェックしていると、「〇〇議員連盟の会費」という支出が目立ちます。調べてみると、香川県議会内に 10 を超える数の議員連盟があるようですが、政活費（ということは税金!）から会費を支出しているにも関わらず、議員連盟が何をやっているのかさっぱり分かりません。



県民に知らされない「議員連盟」の中身

議員連盟の中身を知る必要があると思います。植田は、「すべての議員連盟の平成 25 年度収支報告及び名簿、活動内容のわかるもの」を情報公開請求しました。すると、「議員連盟は議員の有志で構成された団体で、これらの情報は、県議会事務局の職員が組織的に用いるもので、議長が管理していない」ことを理由に、公文書（これらの情報）が存在しないという回答がありました。（現在、異議申し立て中!）

ブラックボックスの見直しを

香川県議会は、ようやく平成 25 年度分からすべての領収書が公開されるようになりました（それまでは 1 万円を超えるもののみ）。それと同時に、議員連盟などの不透明なブラックボックスが数多く存在するようになりました。号泣会見で話題になった兵庫県議会ですら、議員連盟の会費を支出する場合（現在は、その支出はない）は、成果物の提出が義務付けられています。香川県議会にも見直しを求めています。

植田まきって どんなやつ?



- ・1975 年、高松市仏生山町で生まれ育つ。現在 39 歳。
- ・香川大学大学院（教育学）修了後、スポーツ指導員や中学校講師として働く。
- ・議員インターンが転機となり、「身近な政治の場を変えなきゃ!」と思い、27 歳で最年少高松市議に。
- ・議員になってすぐ、「費用弁償」（議会出席手当）受け取り拒否。一貫して議員特権廃止にこだわる。
- ・2 期 8 年議員として活動し、3 期目は立候補せず、2012~2 年間、立命館大学大学院（公共政策）で学ぶ。
- ・2014 年 8 月、長女を出産。

【植田まきの活動スタイル】

- ★政党や組織に属せず、自分の頭で考え行動します。
- ★個人後援会組織は作らず、すべての方々に情報発信。
- ★市民の視点で税金のムダ使いを正します。

※ 手配りで配布させていただいていますので、お手元にタイムリーにお届けできない場合があります。ご了承ください。

新米ママ まっきーの 子育て日記②

私が早産になってしまったので、娘は低出生体重児（一般的には未熟児）として生まれました。出産直後は、「もっとおなかの中にいさせてあげたかった…」と悔やんで、泣いてばかりいましたが、娘は、今のところ大きな病気もなく、元気に育ってくれて有難いです。

しかし、月に一度は、診察と血液検査（ついでに予防接種も）のため病院に行かなければいけません。先日の検査では、これまで低かった貧血やカルシウムなどの値も改善し、私はホッと一安心です。けれど、娘にとっては、この月に一度の血液検査が嫌で嫌でたまらない日です（もちろん、娘は病院に連れて行かれていることは分かりませんが…）。採血の度に大泣きする娘の手に看護師さんが、かわいいテープを貼ってくれました。アンパンマンに支えられている手を見ると私まで気持ちが和みます。



「地方から政治を変える!」連続講座 第3回
「市民派議員が議会を変える!」
 ~市民派選挙、議会活動の手法やノウハウ~
2月15日(日)13:30~
 @高松市男女共同参画センター
植田 まき(元高松市議会議員)

市民派議員として活動してきた経験から、市民が身近な政治の場に関わる意義、選挙や議会活動の手法、現在の地方議会の問題など…内容はてんこ盛り。立候補を考えている人だけでなく、仲間を議会に押し出そうとしている人、議会や行政を変えたい市民の方々と、地方から政治を変えていくにはどうしたらいいのかを考えます。

資料代：500 円 主催：みどりの政策セミナー